

# 技術士 2 次試験に合格して



**長沼 芳樹**

(ながぬま よしき)

## 勤務先

株式会社 構研エンジニアリング

技術管理部

〒065-8510 札幌市東区北 18 条東 17 丁目 1 番 1 号

TEL 011-780-2811 FAX 011-785-1501

E-mail y.naganuma@koken-e.co.jp

■ 専門：情報工学部門(情報システム)

## 1. 自己紹介

私は 1966 年(昭和 41 年)丙午の生まれで、札幌市で育ち現在も札幌市で勤務しております。

小学校の頃から電子工作やコンピューターが好きで、プログラム言語を独学で習得したりしていました。父が橋梁設計技師だった影響もあり、コンピューターを活かした設計技師を志し、北海学園大学工学部土木工学科に進学しました。

1990 年(平成 2 年)に構研エンジニアリング橋梁部に入社し、約 10 年間橋梁のコンクリート構造や基礎構造の設計に従事しました。入社当時の設計業務は手書きが主体で、情報システムといえば、8bit の端末が 2 台と関数電卓という環境でした。

やがて 2000 年(平成 12 年)に「建設 CALS/EC」が始まる頃には、世の中に「IT 革命」という言葉が登場し、1 人 1 台の PC 環境が構築されました。そういう時代の流れに乗るように、私は情報システムと品質マネジメントを運営する部署へ異動となり、以後 ICT と ISO9001 を運営・管理する立場となり現在に至ります。

## 2. 受験の動機

父が建設コンサルタント会社勤務だったこともあり、学生時代から「技術士」という資格の存在は聞いていました。建設コンサルタントになるからには技術士を取れ、とよく言われていたものでした。

入社 2 年目に一次試験(建設部門)に合格しましたが、二次試験を建設部門で受験すべきか情報工学部門で受験すべきかの葛藤がありました。今後の社会や業界を考えたときに、情報技術はどの分野でも必ず技術面でも経営面でも必要となるという考えが強くなりました。自分が専門としていく部門は情報工学なのだと思確し受験を決意しました。

## 3. 試験対策

情報工学部門は参考図書がほとんど無く、身近に

指導者もいない状況でした。なかなか合格ラインに届かず、心が折れていた時期もありました。令和 2 年度はキャリアの面でも後がないと思い、半ば開き直り「欲張らずに自分にやれるだけのことをやりきる」気持ちで臨みました。

対策は通信講座テキストの読み込みと、過去問題・想定問題が主体で、日経クロステックなどの Web 記事を日々追うことを繰り返しました。

自宅は(誘惑が多く)なかなか集中できなかったのので、市内の実家の一室を空けてもらって、毎日勤務帰りに寄って勉強しました。そこには既に亡くなった父の仏壇があり、今思うとずっと遺影が見守ってくれていたのだと思います。

筆記試験については、採点のことはあまり意識せず自分が読み返して納得できる文章を書く決めていました。それが筆記合格につながったと思います。

口頭試験はプレッシャーとの戦いでした。実家で妹に試験官役をお願いして、何度も想定問答を繰り返し、自分の言葉で話せるように練習しました。

合格発表時に、自分の番号を見つけたときは、二度見どころか十回以上も確認をしました。

## 4. 今後に向けて

令和 2 年度はコロナ禍ということもあり、日程や会場の変更など異例の事態が続いた試験でしたが、周りの数々のサポートに助けられて、なんとか合格して技術士になれました。技術士登録証を携えて父の墓前に報告したときには、少し肩の荷が下りた気分になりました。50 代半ばにしてようやくここにたどり着いたオールドルーキーではありますが、これから研鑽を重ねて社会に貢献し、次の世代に繋げられるものを残していきたいです。